



2026年6月22日

各 位

会 社 名 株式会社KYORITSU
代表者名 代表取締役社長 景山 豊
(コード: 7795 東証スタンダード)
問合せ先 専務取締役 田坂 優英
(電話番号: 03-5248-5550)

「事業計画」に関するお知らせ

当社は、2026年6月22日開催の取締役会において、経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るための「事業計画」を改定することについて決議いたしましたので、別添のとおり、お知らせいたします。

以 上



事業計画

(2025.6.23版より改定)

株式会社KYORITSU

(証券コード：7795)

2026年6月22日

1 事業計画

(事業セグメント更新・成長戦略)

2 2026年3月期決算概要

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針の策定について

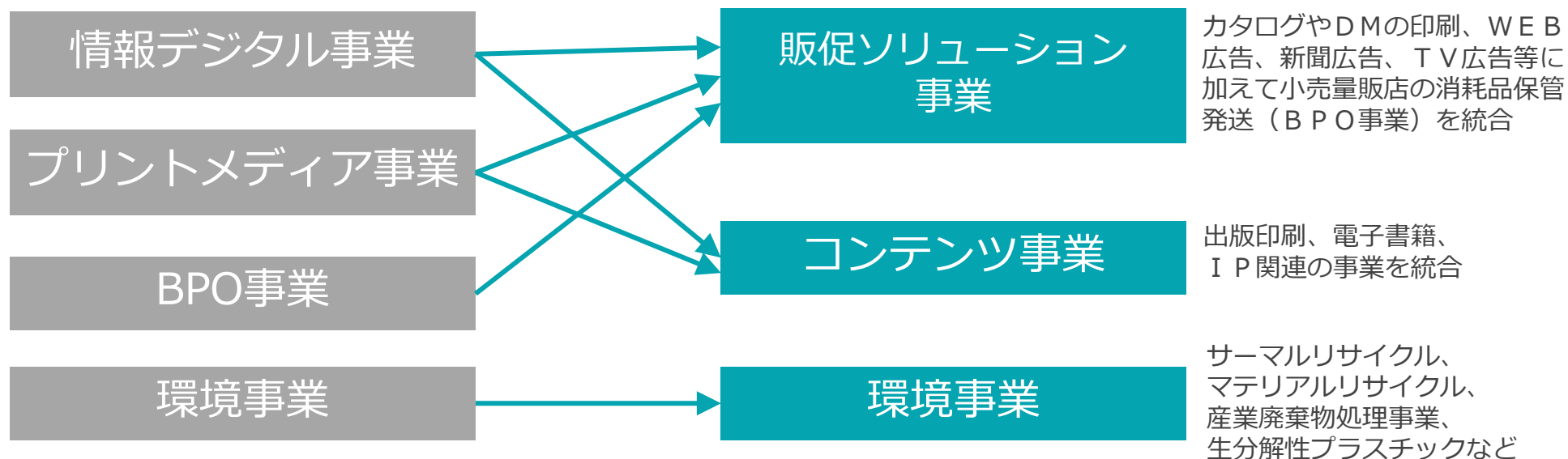
(2026.6.22更新)

1

事業計画

経済環境や市況の変化に対応するセグメント区分の戦略的リビルド（再構築）

市場の求める価値を基準とし、3つの事業に区分



M&Aにより販促関連企業をグループ会社化するなかで、市場ニーズに適した体制を構築するためには多様な販促媒体の融合が不可欠であると判断しました。また、グループ発展のためには、コンテンツ事業によるIP創出事業の成長にも注力して参ります。

新事業ポートフォリオ（持続的成長戦略）



販促ソリューション事業

強固な基盤と販促連携による事業拡大

収益の基盤である商業印刷（カタログ・DMなど）に加えて、WEB広告や新聞広告、TV広告を中心とした映像制作など全方位型販促ソリューションに取り組む

役割 グループを支える基盤

戦略 あらゆる販促課題に対応・クロスセルの最大化



コンテンツ事業

IPや出版などの創造事業の挑戦領域

出版印刷、電子書籍を中心に、IP創出事業など新しい価値創造に注力し、将来の成長に取り組む

役割 新たな価値の創出

戦略 IP資産の拡大



環境事業

安定した高収益事業によるポートフォリオ

マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、廃棄物処理で環境に貢献し、高い収益性を保ちながら着実な規模拡大に取り組む

役割 循環型社会への貢献

戦略 資源循環ネットワークの全国展開

2028年3月期までの数値目標

2028年3月期までに長期的な社会貢献と持続可能な強い事業体の構築に向けて邁進いたします。 (百万円)

売上高	販促ソリューション	コンテンツ	環境	連結調整	計
2026年 3月期実績	38,502	2,425	1,992	—	42,920
2028年 3月期目標	42,000	3,000	5,000	—	50,000

売上高

500 億円

以上

成長エンジンとなる販促ソリューション事業・環境事業はグループシナジーとM&Aを軸に、コンテンツ事業は長年培ったIoT生産体制を強化いたします。 (百万円)

営業利益 (利益率)	販促ソリューション	コンテンツ	環境	連結調整	計
2026年 3月期実績	1,440 (3.7%)	125 (5.2%)	240 (11.9%)	▲401	1,405 (3.3%)
2028年 3月期目標	1,610 (3.8%)	190 (6.3%)	600 (12.0%)	▲400	2,000 (4.0%)

営業利益率

4%

以上

※中東情勢の影響による材料費の高騰を踏まえ、利益確保の見積を見直し、目標営業利益率を5%から4%としました。

自己資本比率

40% 以上

3期連続で目標達成継続中。引き続き、財務体質強化と成長戦略投資の両輪を図るべく継続します。

配当性向

30% 以上

株式の売却益による特殊要因により、2026年3月期は悪化。新たな価値を創出し続ける企業を目指して、安定的・継続的な株主還元を実現するべく30%以上を目指します。

販促ソリューションにおける

① 設備投資 (追従を許さない「圧倒的製造キャパシティ」の実現)



カタログやDMを中心とした販促媒体の製造



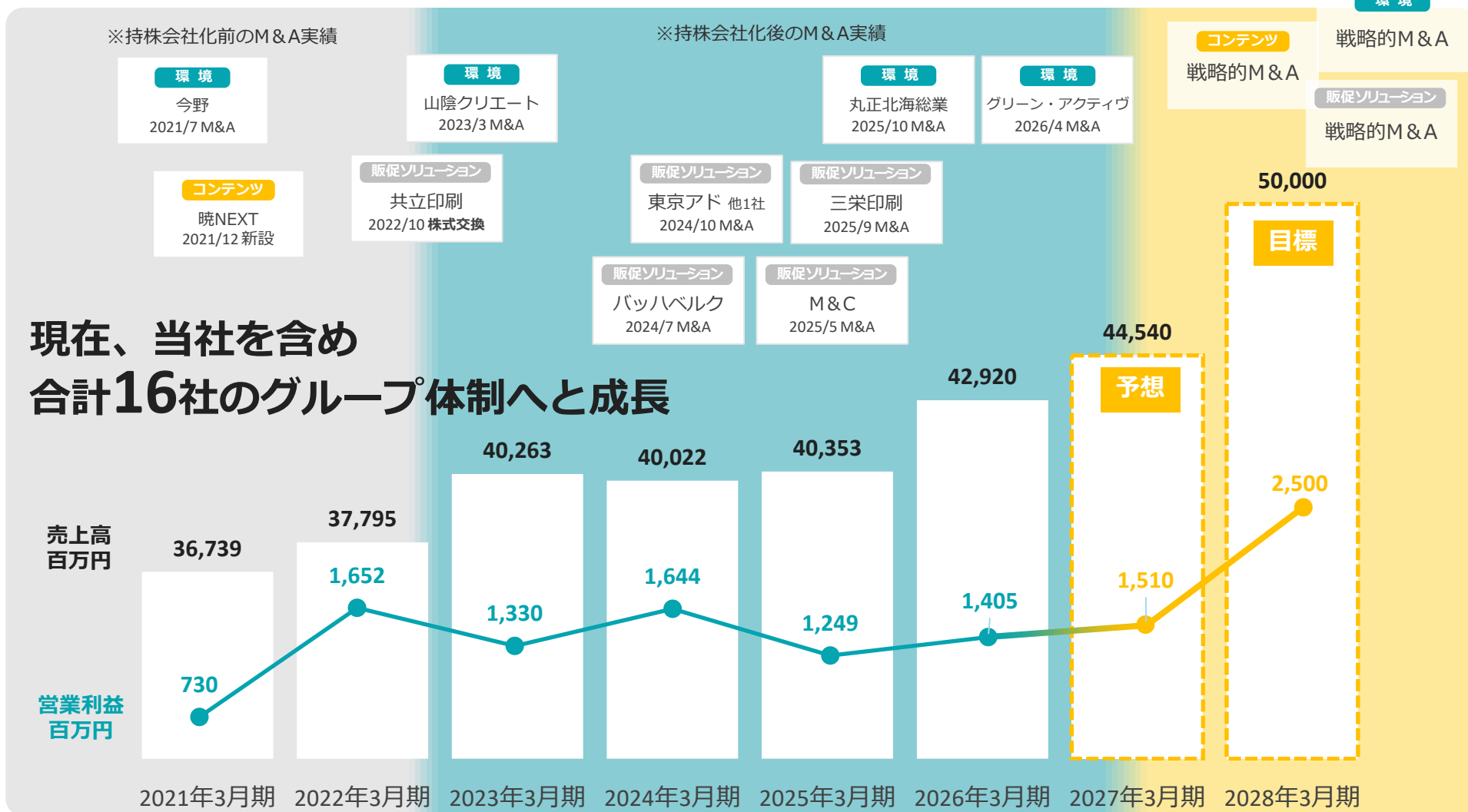
印刷工場3万坪、製本工場・物流2万坪、国内最大規模の印刷拠点であらゆるご要望に対応します。

A判輪転機

最新鋭 A 判輪転機を追加導入 ➡ グループ保有台数20台へ

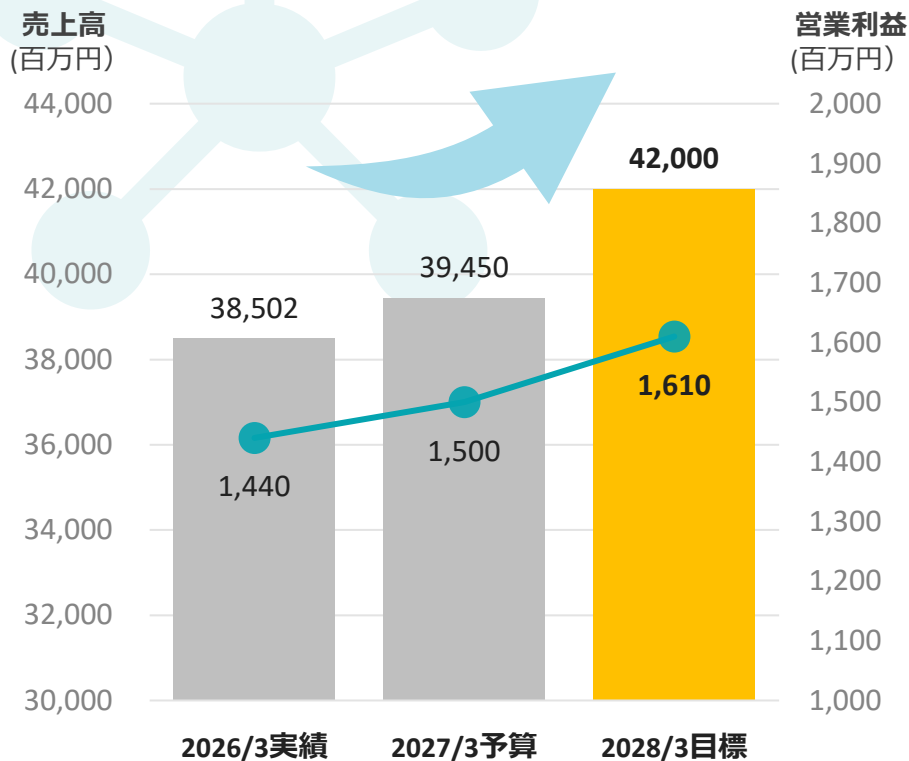
(共立印刷18台 西川印刷1台 追加導入1台)

② M&A (M&Aによる積み上げと成長シナリオ)



【M & Aの投資効率の実績】 グループ会社が獲得したフリーキャッシュフロー/投下資本=21.59% (年換算) を実現
今後も投資利回り10%以上を条件としてM & Aを実行してまいります

販促ソリューション事業の数値目標



■ 事業別売上高 ■ 2028年3月期売上高目標
● 事業別営業利益/2028年3月期営業利益目標

2028/3 売上高 42,000百万円
【目標】 営業利益 1,610百万円



商業印刷 (カタログ・チラシ)

高品質・大口ロットを可能とする効率的な生産を実現



DMサービス (レコメンドDM)

顧客の購買履歴をもとに好みに合わせたDM



総合広告代理業

全国にリーチする新聞広告、TV、ラジオ



WEB広告・WEBマーケティング

デザイン・クリエイティブに精通



映像制作

売れる通販番組を追求・タレントキャスティング



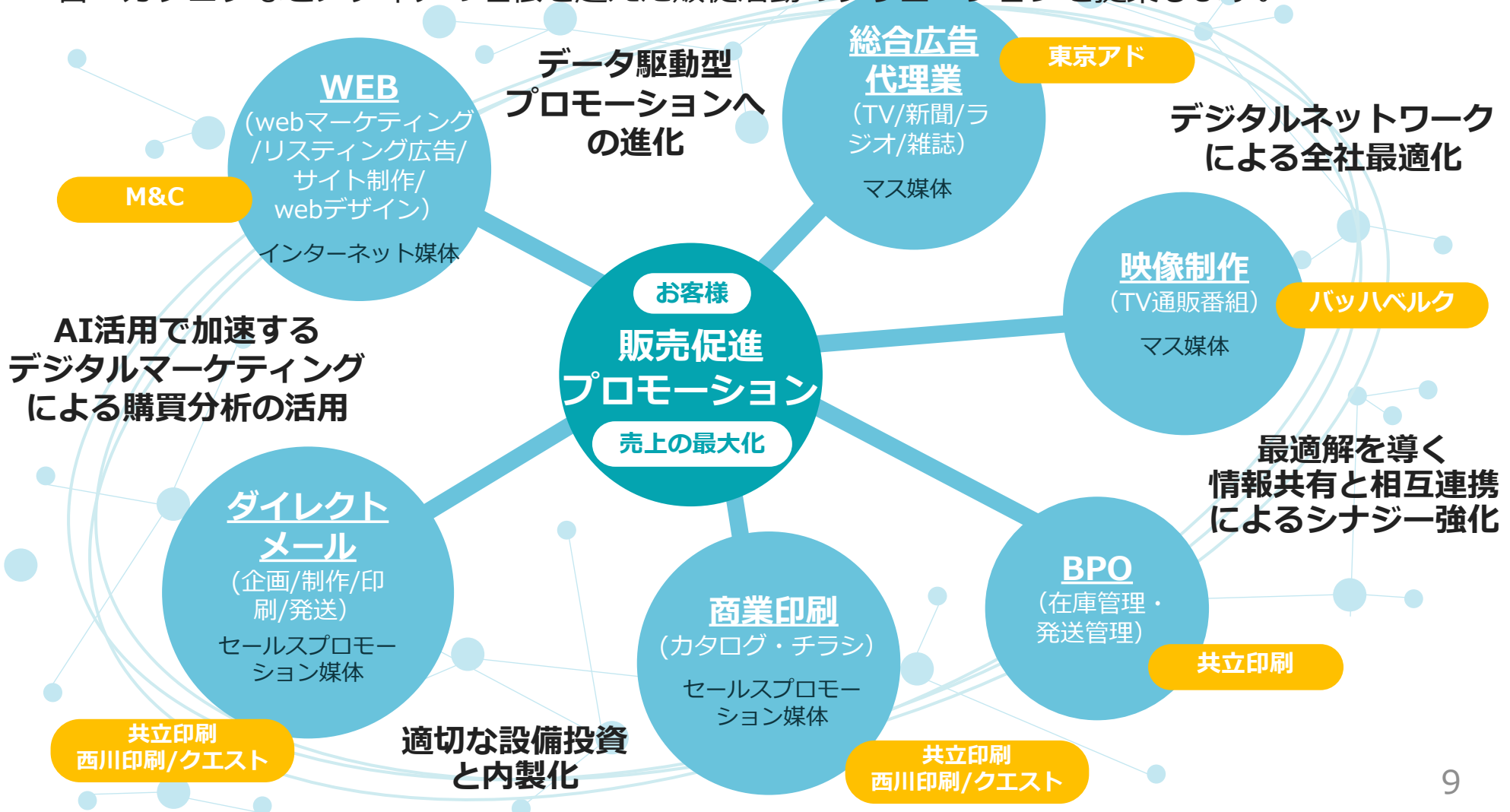
BPO (倉庫管理発送)

自社開発の受発注システム・在庫管理・発送管理

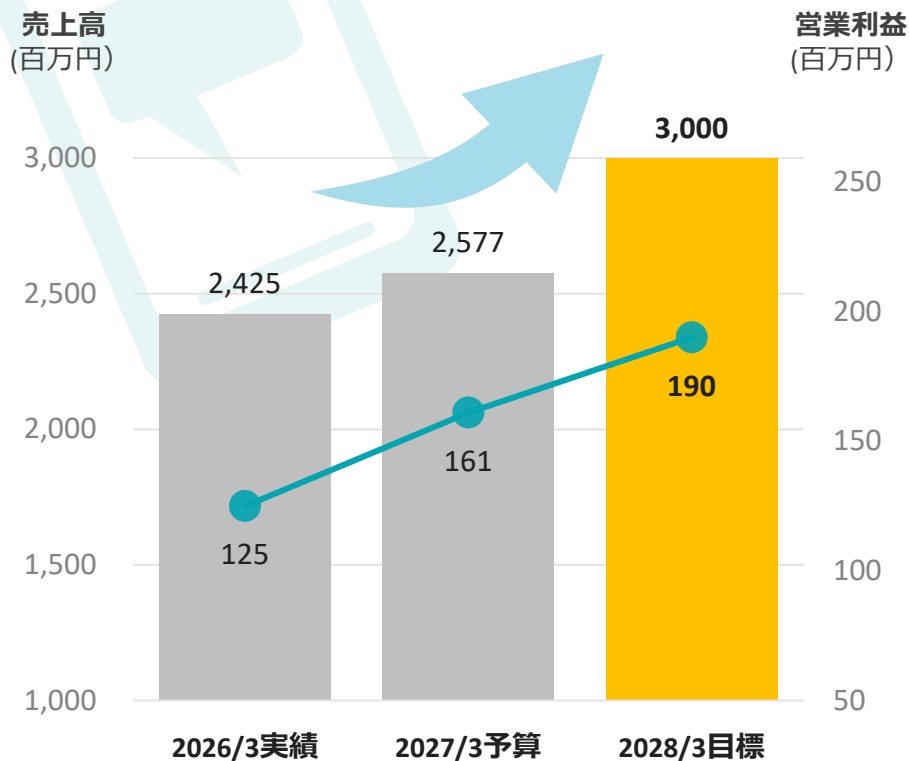
販促ソリューション事業の取り組み

顧客の売上を最大化する全方位型販促ソリューションを確立

デジタル活用でスピードと質を高め、ダイレクトメール、WEB広告、通販番組、TV・新聞広告・カタログなどメディアの垣根を超えた販促活動のソリューションを提案します。



コンテンツ事業の数値目標



■ 事業別売上高 ■ 2028年3月期売上高目標
● 事業別営業利益/2028年3月期営業利益目標

2028/3 売上高 **3,000百万円**
【目標】 営業利益 **190百万円**



出版印刷 (文庫本、コミック)

出版社との長く深い信頼性に基づくパートナー



IP創出事業

企画からオリジナル作品を生み出す



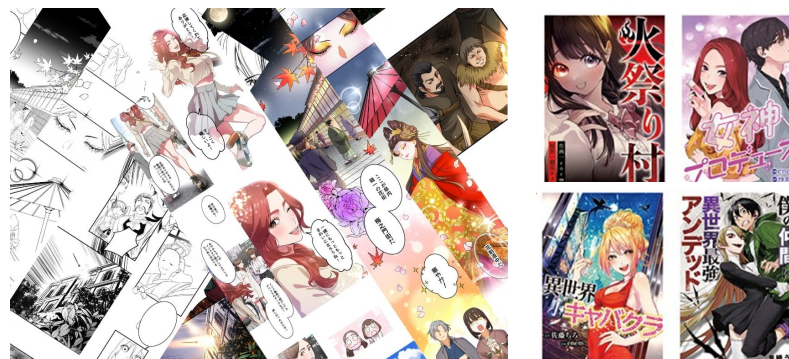
配信取次 (電子書籍)

出版社と電子書店間のコンテンツ流通



データ制作 (電子書籍)

高クオリティなカラーリングや縦スクロール化



コンテンツ事業の取り組み

創造性を大切にし、事業拡大を目指す

作品ひとつひとつを大切に創り、あらゆる形態（電子・紙）でエンドユーザーにお届けします。

出版社との強固な
パートナーシップ

電子書籍

(コミックのタテスクロール化やカラーリングのデータ制作から主要電子書店への配信取次など)

デジタルエンジン

暁NEXT

価値の 最大化

作品ひとつひとつ
を大切に

IP創出事業

(次世代作家を発掘・育成しオリジナル作品を創出)

デジタルエンジン

暁NEXT

出版印刷

(安定したクオリティと効率的なシステム連携で文庫本、コミック、新書などを印刷・製本)

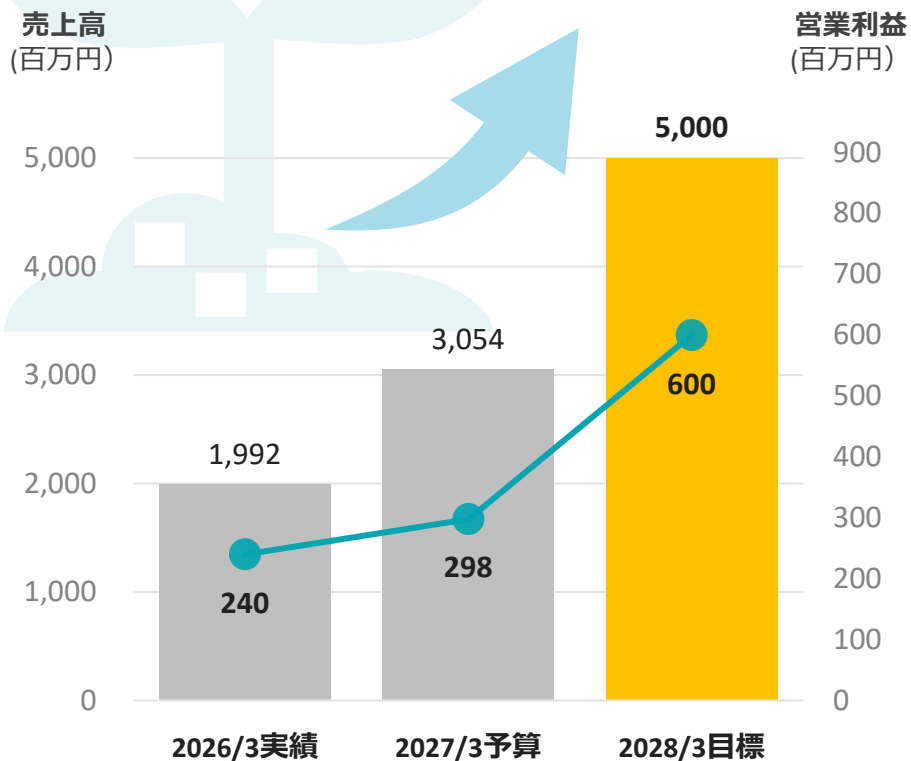
リアルエンジン

暁印刷

相互連携による
シナジー強化

伝統的なモノづくり（出版）の誇りと
革新（デジタル・IP創出）
への挑戦

環境事業の数値目標



■ 事業別売上高 ■ 2028年3月期売上高目標
● 事業別営業利益/2028年3月期営業利益目標

2028/3 売上高 5,000百万円
【目標】 営業利益 600百万円



マテリアルリサイクル

循環型リサイクル資材の製造販売



サーマルリサイクル

R P F 燃料製造 ・ フラフ燃料
(石炭の代替え燃料) (非加熱で圧縮した燃料)



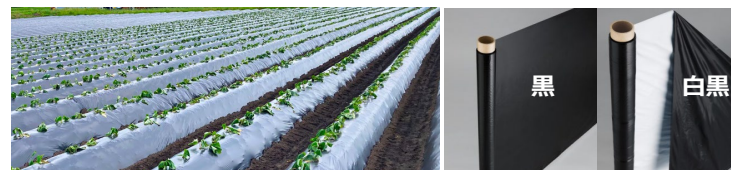
産業廃棄物処理

解体、運搬、処分まで一貫して対応



生分解性プラスチック

自然に還るプラスチック



環境事業の取り組み

循環型社会に貢献し、事業規模を拡大

資源循環型社会の実現をめざし、
環境事業の全国ネットワークを構築

収集運搬、最終処分場の共有、
リサイクル技術の共有

グリーン・アクティヴ

丸正北海総業

NEW!
2026年4月

道央・札幌近郊エリア

NEW!
2025年10月

中国・関西エリア

山陰クリエート

今野

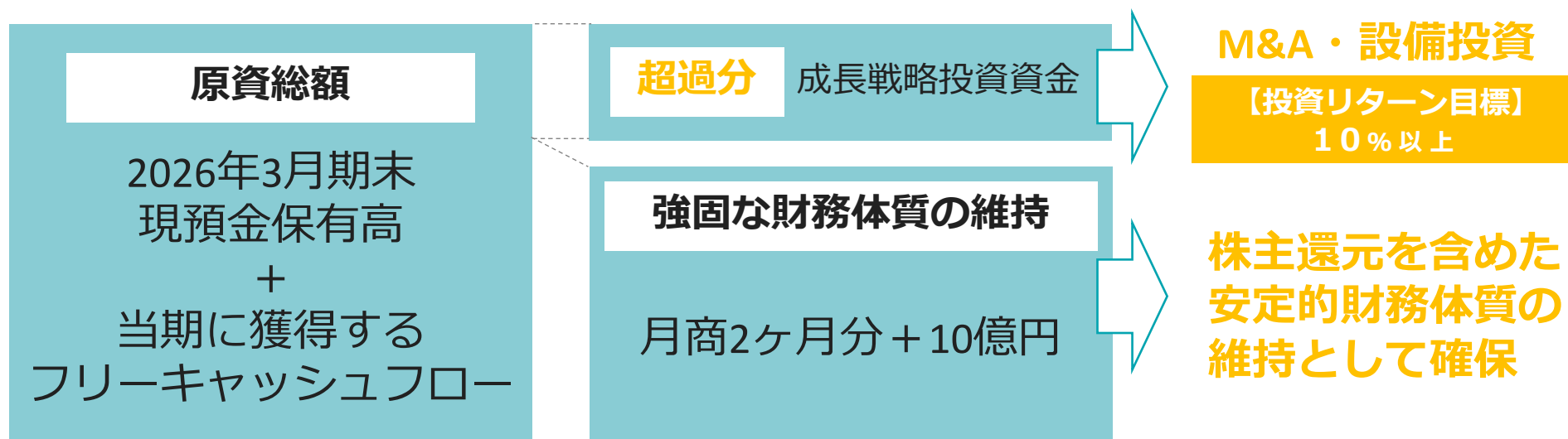
関東エリア

AIで産廃選別を
スマート化

デジタル技術で構築した
システムをグループ展開し、
効率化を加速

成長戦略資金の考え方

【経営目標】 売上高500億円以上・営業利益率4%以上



当社は、成長戦略投資における投資リターン（投資によって獲得したフリーキャッシュフロー/投下資本）10%以上を目標としており、今後のM&A候補先や設備投資を行う上での判断基準としております。

上記の基準に基づく資金の一部を安全性の高い資産への投資に振り向けており、上昇傾向にある支払利息の軽減を目的としております。

本業で稼ぐ力と有利子負債を織り交ぜながら積極的な成長戦略投資を加速させてまいります。

2

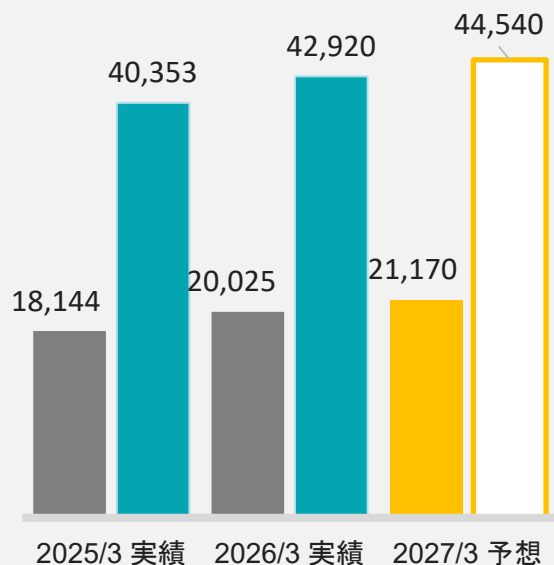
2026年3月期 決算概要

連結業績ハイライト

売上高

42,920百万円

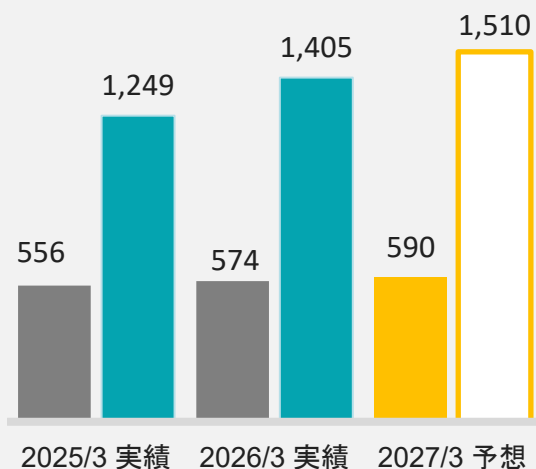
前年同期比6.4% 増



営業利益

1,405百万円

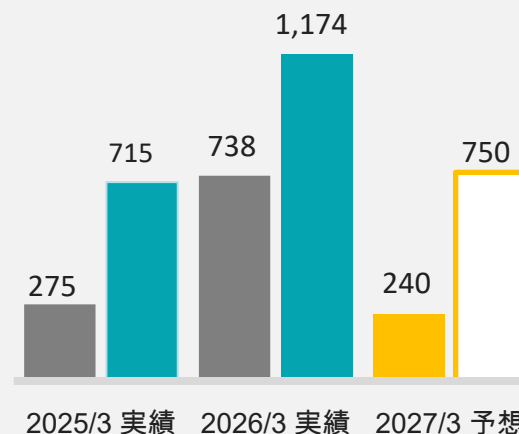
前年同期比12.5% 増



親会社株主に帰属する 四半期純利益

1,174百万円

前年同期比64.1% 増



■ 2Q ■ 4Q ■ 予想2Q □ 予想 (百万円)

連結業績概要

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年同期比	2027年3月期 予想
売上高(百万円)	40,353	42,920	+6.4%	44,540
営業利益(百万円)	1,249	1,405	+12.5%	1,510
営業利益率	3.1%	3.3%	—	3.4%
のれん償却・M&A費用を除外した営業利益(百万円)	1,510	1,742	+15.4%	1,908
営業利益率	3.7%	4.1%	—	4.3%
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	715	1,174	+64.1%	750

■ 2026年3月期については、印刷部門の内製を強化したことにより、収益改善。環境事業において、北海道エリアのリサイクル事業会社有限会社丸正北海総業のM & Aによる業容拡大。株式売却による特別利益計上。

■ 2027年3月期については、前期にM & Aした有限会社丸正北海総業が通期で業績に寄与する分を見込みつつ、既存グループ会社については、市場環境を鑑み硬めに予算を積み上げており、着実な予算達成を目指す。

株主還元

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想
一株あたり 年間配当	普通配当7.5円	普通配当8.0円	普通配当 8.0 円
配当性向	45.8%	29.1%	45.4%
自己株式取得	32.6百万円	202百万円 ※	—円
総還元性向	50.3%	46.0% ※	45.4%

※株式給付信託拠出金は算出から除外しております。

**2026年3月期は、前期から0.5円の増配を行いました。
引き続き安定的配当ができるよう事業拡大に努めます。**

■ 配当方針 ■

当社は、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な資金を確保しつつ、配当性向 30%以上を目標に、株主のみなさまに対する安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

3

資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応方針の策定について (2026.6.22更新)

PBR向上への目標と今後の取り組み

【現状分析】

当社グループのPBRは、足元0.4~0.5倍程度であり、長期に渡り1倍を下回る状況が続いております。これは事業の成長性や利益率の低調が要因であると捉えておりますので、重要業績評価指標(KPI)と位置付けている売上高と営業利益率の向上がPBRの向上に必須であると認識しております。

【PBR改善に向けた目標指標】

「グループ売上高500億円以上、営業利益率4%以上」の着実な実現を目指し、その上で自己資本比率40%以上、配当性向30%以上の継続を目指します。

【PBR向上への施策】

①事業ポートフォリオの再構築

当社グループは、目標への達成速度を加速させるため、販促支援（サービス）と商品販売（モノ）の区分を再定義し、シナジー効果を最大化させるべく事業ポートフォリオを「販促ソリューション事業」、「コンテンツ事業」、「環境事業」の3事業に戦略的に再構築し、当社の重要業績評価指標（KPI）と位置付けている売上高と営業利益率の向上施策に務めております。

PBR向上への目標と今後の取り組み

「販促ソリューション事業」においては、顧客の売上を最大化する全方位型販促ソリューションを確立し、ダイレクトメール、WEB広告、通販番組、TV・新聞広告・カタログなどメディアの垣根を超えた販促ソリューションを提案してまいります。

「コンテンツ事業」においては、生産体制や物流面で蓄積したIoT技術を活かして生産性向上に努めるとともに、デジタルと融合し、作品が資産となるIP創出に取り組んでまいります。

「環境事業」においては、既存事業の拡大に加え、積極的なM&Aによる全国規模のリサイクルネットワークを構築することで、事業領域や業容エリアの拡大に努めてまいります。グループ会社内での販促活動や生産体制などでシナジーを活かすとともに、M&Aにより成長性を高めたいと考えております。

これらを進めるとともに、戦略的な経営資源の投下により成長性と利益率の高い体制構築に取り組んで参ります。

PBR向上への目標と今後の取り組み

②財務戦略・資本政策

自己資本比率40%以上を継続するために収益力の強化に努めるとともに、調達余力を意識した有利子負債水準を意識しつつ、機動的な成長戦略投資にも対応するべくネットキャッシュ残高を意識した財務体質を構築し、持続的な成長に向けた「成長戦略投資」「財務の健全性」「株主還元」のバランスを追求します。

③株主還元

配当方針については、「当社は、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な資金を確保しつつ、配当性向30%以上を目標に、株主のみなさまに対する安定的かつ継続的な配当を行うこと」を基本方針としております。

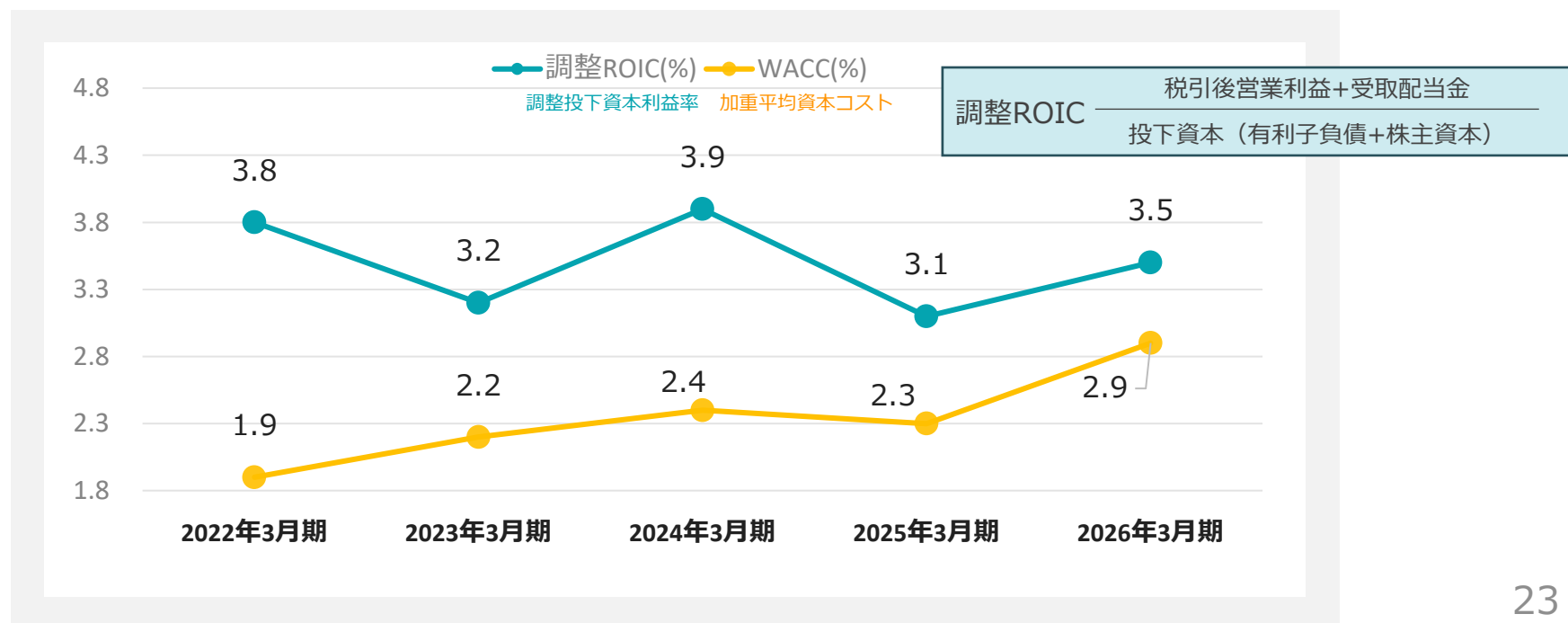
④IR戦略

PBRの低水準については、当社事業に対する成長可能性や将来の期待値が低いと認識されている事も要因の一つと考えております。
事業収益の向上に努めるだけでなく、株主・投資家のみなさまとのコミュニケーションを重視し、当社グループの事業戦略や将来性、社会貢献などについてご理解頂けるように努めて参ります。

資本コストを意識した投資の取り組み

WACCを上回るM&A・設備投資を意識しており、成長戦略投資におけるM&Aの条件としては、投資リターン（投資によって獲得したフリーキャッシュフロー/投下資本）10%以上を目標としております。

当社グループのM&Aの投資効率の実績といたしましては、グループ会社が獲得したフリーキャッシュフロー/投下資本=21.59%（年換算）を実現しております。今後も投資利回り10%以上を条件としてM&Aを実行し、調達コストを上回る設備投資・M&Aといった成長戦略投資を行ってまいります。



会社概要

社名	株式会社KYORITSU
所在地	東京都板橋区清水町36番1号
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する業務
資本金	33億9,384万円
決算期	3月31日
上場取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7795）
役員	代表取締役社長 景山豊 専務取締役 田坂優英
URL	https://www.kyoritsu-hd.co.jp/



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。